

ジョンソン & ジョンソン(JNJ)

【セクター】 医薬品

【市場】 NYSE

【企業概要】

世界最大のヘルスケア企業です。売上の50%を占める医薬品部門は、免疫学、感染症、神経科学、腫瘍学、心臓血管と代謝疾患を含む5つの治療分野を中心にリウマチ治療薬の「レミケード」、乾癬治療薬「ステラーラ」、前立腺がん治療薬「ザイティガ」などを擁し、同33%を占める医療機器部門は、外科手術、整形外科、心臓血管、糖尿病ケア及び視力ケア分野に使用される製品を扱い、同17%の消費者部門は、ベビー・ケア、口腔ケア、スキン・ケア、市販薬、女性の健康と創傷ケアなどの分野の製品を扱います（18年12月期）。

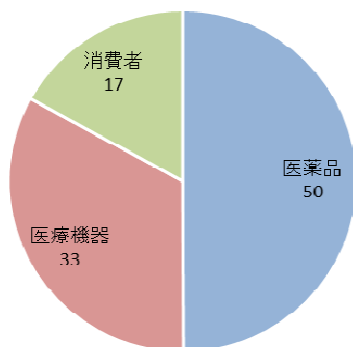
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

| 決算期 | 売上高 | 純利益 | EPS | DPS | BPS | ROE | 自己資本比率 |
|-----------|--------|--------|------|------|------|------|--------|
| 17年12月期 | 76,450 | 17,559 | 6.39 | 3.32 | 22.4 | 26.9 | 38.2 |
| 18年12月期 | 81,581 | 18,427 | 6.76 | 3.54 | 22.4 | 30.7 | 39.1 |
| 19年12月期予想 | 81,227 | 23,151 | 8.61 | 3.77 | 23.7 | 37.6 | - |

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【主要指標】

図表1 部門別売上構成比（18年12月期、%） 図表2 主力医薬品の19年12月期予想売上（予想はBloomberg）



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

| 薬名 | 用途 | 予想売上 (億ドル) |
|------------|------------|---------------|
| ステラーラ | 乾癬治療薬 | 50 |
| レミケード | 関節リウマチ治療薬 | 45 |
| ザレルト | 経口抗凝固薬 | 30 |
| インヴェガ・サステナ | 精神病治療薬 | 29 |
| インブルビカ | B細胞性腫瘍の治療薬 | 29 |
| ダーザレックス | 多発性骨髄腫治療薬 | 24 |
| ザイティガ | 前立腺がん治療薬 | 23 |

（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【会社の見方】

同社の医薬品部門は年間売上10億ドルのポテンシャルがある新薬を19年までに10個申請する計画で、パイプラインが強く、中期的な成長を牽引していくことが期待されています。一方、同社製ベビーパウダーの訴訟がリスク要因として意識されています。これはベビーパウダーのタルク（滑石）にアスベストが含まれていて、がんを引き起こしたとして訴えられているもので、1万4,000件の訴訟を抱えています。賠償額のリスクを最大限に見積もると数百億ドル（数兆円）と考えられますが、50～150億ドルで和解できる可能性が高いと見られています。

【見通し・注目点】

19年12月期の調整後EPSが前年比5%増とする会社ガイダンスは、ドル高の逆風を考えると健闘しているように見えますが、増加要因のほとんどが営業外の改善と自社株買いによる発行済株式の減少となっています。主力薬「レミケード」にバイオシミュラー（バイオ医薬品の後発薬）が発売された影響が大きく本業の利益は停滞する見込みです。この影響が一巡する2020年以降は医薬品部門の牽引で、より健全な売上・益成長が期待されます。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 19/5/29）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。